

令和4年度 編入学・学士入学試験

専門科目 : 簿記

受験番号 HK

令和4年度 編入学・学士入学試験 問題一覧

【注意事項】

1. 問題用紙は3ページあるので確認すること。
2. 解答には黒色の鉛筆あるいはシャープペンのみを用いること。
3. 各用紙に受験番号を明記すること。

第1問 会計年度末に行われる決算手続について、手順を解説するとともに、精算表を作成する意義について述べなさい。

第2問 期末に保有している株式の内訳明細を調べたところ、下表のとおりであった。解答欄の区分表示された貸借対照表に、各株式の科目名と金額を正しく記載しなさい。なお、税効果会計は考慮外とする。

銘柄等	取得原価	期末時価	摘要
Z社株式	2,500千円	2,000千円	売買目的での取得
A社株式	8,000千円	—	関連会社
当社株式	2,000千円	—	自己株式

第3問 次の取引の仕訳を行いなさい。

- (1) F島会社は、備品¥1,500,000を購入し、代金は約束手形を振り出して支払った。
- (2) A島会社が6月25日に開催した株主総会で、配当¥500,000の決定がなされた。配当財源は半分を
その他資本剰余金から、残りの半分をその他利益剰余金から拠出している。なお、配当金の10分の
1を準備金として積み立てている。
- (3) F島会社は、R2年期首において、O島社とリース契約（オペレーティング・リース取引に該当）を
締結している。年間のリース契約は¥15,000であり、毎年3月末日に当座預金口座より支払うこと
になっている。
- (4) F島会社は、日本に本社のある会社である。12月20日に米国のB社より商品200ドルを掛けで仕
入れた。代金の決済は5月20日、F島会社の決算日は3月31日である。仕入日から決算日までの
為替レートの推移は以下の通りである。決済日の仕訳を行う。

【為替相場】 仕入日 1ドル = ¥135
 決算日 1ドル = ¥125
 決済日 1ドル = ¥130

- (5) R2年期首において、自動車製造会社が建物の定期的な修繕を行い（購入時の取得原価は¥900,000）
代金¥1,000,000のうち¥350,000を小切手振り出しにより支払い、残額は月末に支払うことにした。
修繕代金のうち¥625,000は当該建物の耐用年数を延長させる効果があるとされ、修繕引当金の残高
が¥300,000となっている。

第4問 以下のF島会社に関する一連の資料にもとづいて、答案用紙の()に適切な金額を記入し、F島会社のR2年度(自R2年4月1日至R3年3月31日)の株主資本等変動計算書(単位:円)を完成しなさい。前期の決算で作成された貸借対照表の純資産の部に記載された項目金額は答案用紙に示したとおりであり、この時点における当社の発行済株式数は12,000株である。なお、減少の場合には、金額の前に△で示すこと。

【資料一覧】

1. R2年6月26日に行われたF島株式会社における株主総会で、利益剰余金を財源とした剰余金配当が以下の通り決定された。

株主への配当金：1株につき¥150

利益準備金：(¥ ?)

新築積立金：¥500,000

2. R2年7月1日、F島会社は今後の競争力を高めるため増資を行い、3,250株を1株につき@¥5,000で発行した。払込金は全額当座預金に預け入れた。会社法で規定する最低限度額を資本金として計上する。
3. R2年11月15日にK物会社を吸収合併し、合併対価として新株3,500株(1株当たりの時価は@¥8,000)を発行し、K物株式会社の株主に交付を行った。新株の発行にともなう純資産増加額のうち、¥8,000,000は資本金、¥4,000,000は資本準備金とし、残りの金額をその他資本剰余金とした。
4. R3年3月31日に決算を行った。結果として、当期純利益を¥8,500,000計上した。
5. R3年3月31日にその他有価証券の期末時価がR2年4月1日と比較して、¥300,000上昇した。